

# 学びの環境に関するアンケート調査 結果報告書

---

木曾地域広域連携推進会議  
学びの場環境整備部会

令和8(2026年)年3月

# 目次

---

<b>第1章 調査概要</b>	<b>1</b>
1-1 調査の目的	1
1-2 調査実施期間	1
1-3 調査対象	1
1-4 調査方法	1
1-5 回答状況	1
<b>第2章 保護者アンケート結果</b>	<b>2</b>
2-1 回答者属性	2
2-2 子どもの学びの環境について	2
2-3 広域連携による教育環境の充実	4
2-4 地域との連携について	5
2-5 地元高校への進学について	6
2-6 その他	7
<b>第3章 教職員アンケート結果</b>	<b>9</b>
3-1 回答者属性	9
3-2 学校運営における広域連携ニーズ	9
3-3 ICT活用について	10
3-4 部活動の地域移行（展開）について	12
3-5 地域との連携について	12
3-6 学校運営（事務部門）における広域連携	14
3-7 地元高校への進学について	15
3-8 その他	16
<b>第4章 調査結果の総括と提言</b>	<b>18</b>
4-1 主要な調査結果	18
4-2 提言	20
<b>参考資料</b>	<b>22</b>
調査項目詳細	22

# 第1章 調査概要

---

## 1-1 調査の目的

子どもを取り巻く学びの環境整備のための広域連携を推進するにあたり、現場の教職員や保護者など多様な関係者の意見を幅広く収集し、学びの環境に関する課題やニーズを把握することで、今後の具体的取組みの検討基礎資料とする。

## 1-2 調査実施期間

令和7年12月～令和8年1月

## 1-3 調査対象

- (1) 保護者アンケート  
木曾郡内の小・中学校保護者
- (2) 教職員アンケート  
木曾郡内の小・中学校教職員

## 1-4 調査方法

学校経由で、アンケート調査の依頼通知を配布し、オンラインフォーム（QRコード・URL）により回答

## 1-5 回答状況

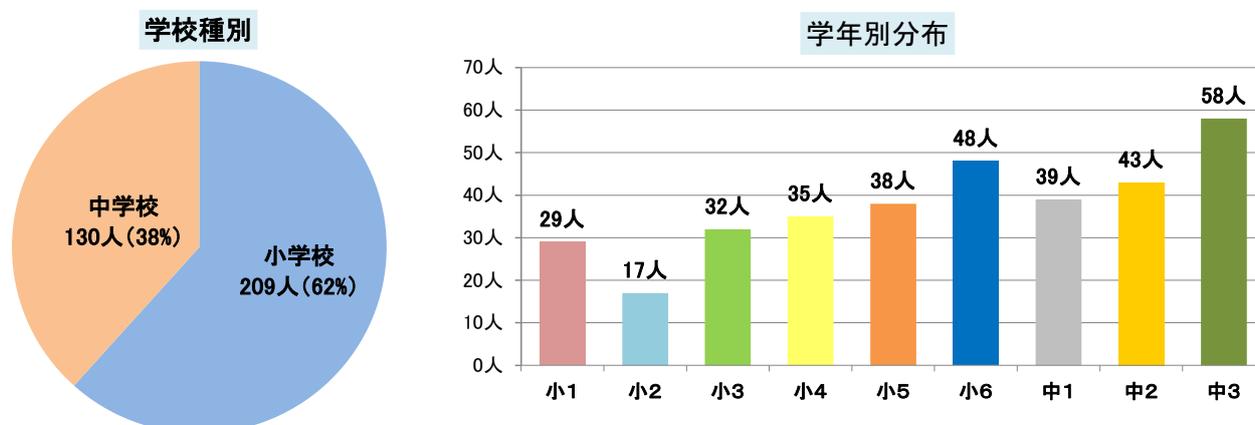
- (1) 保護者アンケート  
339件【回答率：25.9%（対象児童・生徒数1,310人を分母として算出）】  
※世帯数による回答率は算出していない。
- (2) 教職員アンケート：  
128件【回答率55.4% 対象者数231人】

※ 児童・生徒数、教職員数は令和7年度学校基本調査数値

## 第2章 保護者アンケート結果

### 2-1 回答者属性

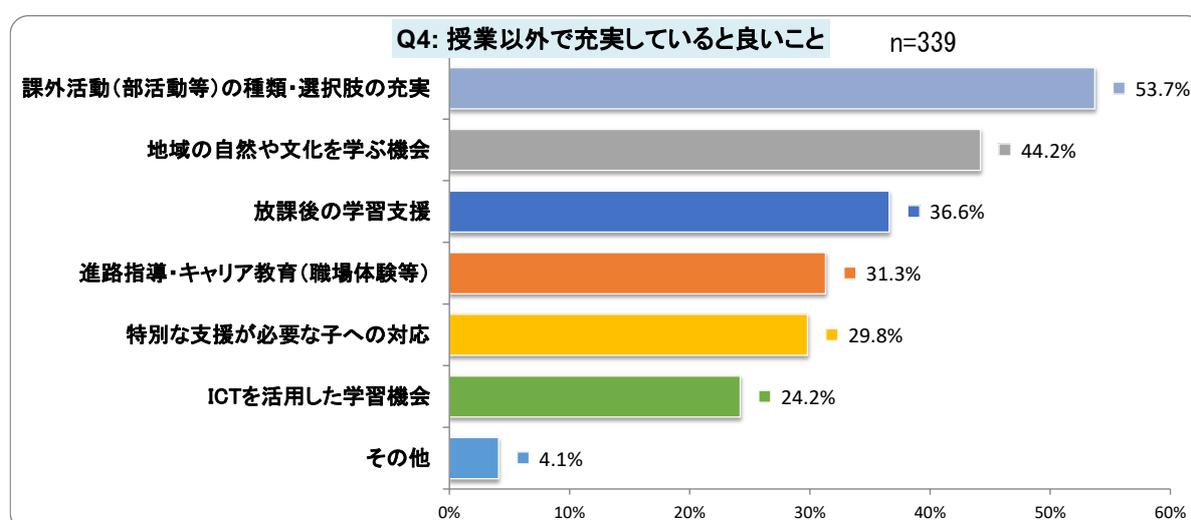
本アンケートは、木曾郡6町村（上松町・南木曾町・木曾町・木祖村・王滝村・大桑村）の小・中学校保護者を対象に実施し、339件の回答を得た。対象児童・生徒総数1,310人に対する回答率は25.9%であった。



### 2-2 子どもの学びの環境について

#### Q4 学校の授業以外で充実していると良いこと（複数回答）

授業以外で充実していると良いこととして、「課外活動（部活動等）の種類・選択肢の充実」が53.7%で最も多く、次いで「地域の自然や文化を学ぶ機会」が44.2%、「放課後の学習支援」が36.6%となっている。



「その他」の主な内容：現状充実している、他校との交流、交通手段の充実、学童・第三の居場所など

## Q5 学校の授業以外で充実していると良いことの具体的内容（自由記載）

回答数 191 件 カテゴリー別に主な意見を記載

### 【部活動・課外活動】

- ・部活動の選択種類の拡大（種類が少ない）、支援の充実
- ・人数の多いスポーツしか部活が無いのがおかしい。個人スポーツも選択肢が広がるとよい。
- ・部活動の地域移行（展開）に自治体のサポートが無さすぎる（送迎バスを出してくれない）。
- ・スクールバスの関係で部活動の時間が短く練習があまりできない。
- ・活動しやすく、保護者の負担（送迎等）も軽減してほしい。
- ・少子化でどの部活動も人数不足や指導者不足。町村単独では限界があるので、郡全体であり方を検討してほしい。

### 【地域連携・体験学習】

- ・地域や職業、技術等を間近に感じられるような機会を作ってもらえて、ありがたい。
- ・地域の方々に講師に迎えた学習や、地域の方々・保護者が気軽に学校に行ける機会を設けてほしい。
- ・木祖中のような活動を他中学でも取り入れられると良い。
- ・地域の文化や昔のことを学ぶ学習があると良い。木曾の伝統文化を知る機会がほしい。
- ・木曾ならではの自然を活かした活動をしてほしい。
- ・地元に限らず専門的知識のある方の力を活用し、様々な世界に触れてほしい。

### 【学習支援】

- ・都市部と比べ学習支援は弱い。教員の負担にならない放課後の学習支援があると良い。
- ・講師がいてしっかりした塾（塩尻まで通うには送迎しなくてはならない）。
- ・授業で理解出来なかったところを質問出来る時間や場所がほしい。個々に合った学習環境の充実。
- ・放課後学童で勉強を教えてほしい。
- ・早朝や放課後に自習室を設けて自主学習できる場所があるとよい。
- ・インフルエンザやコロナ罹患時や学級閉鎖時、ちょっと学校に行きづらい日に授業にオンラインで参加したい。
- ・小学校の時にあった外部の指導者による英語学習。

### 【進路・キャリア教育】

- ・もう少し子供達が自分の将来を考え、選択できるような取り組みが必要。地域の企業や自治体職員だけではなく、フリーランス、女性のキャリア、移住して働く人、海外で働く人など、多様な働き方や生き方に触れられる機会があるとよい。
- ・低学年からの職場体験の実施。
- ・社会の一員としての将来を子供時代から考えながら過ごせるカリキュラムがあるとよい。
- ・キャリアに関して地元だけでなく、幅広い業種があることを教えてあげてほしい。

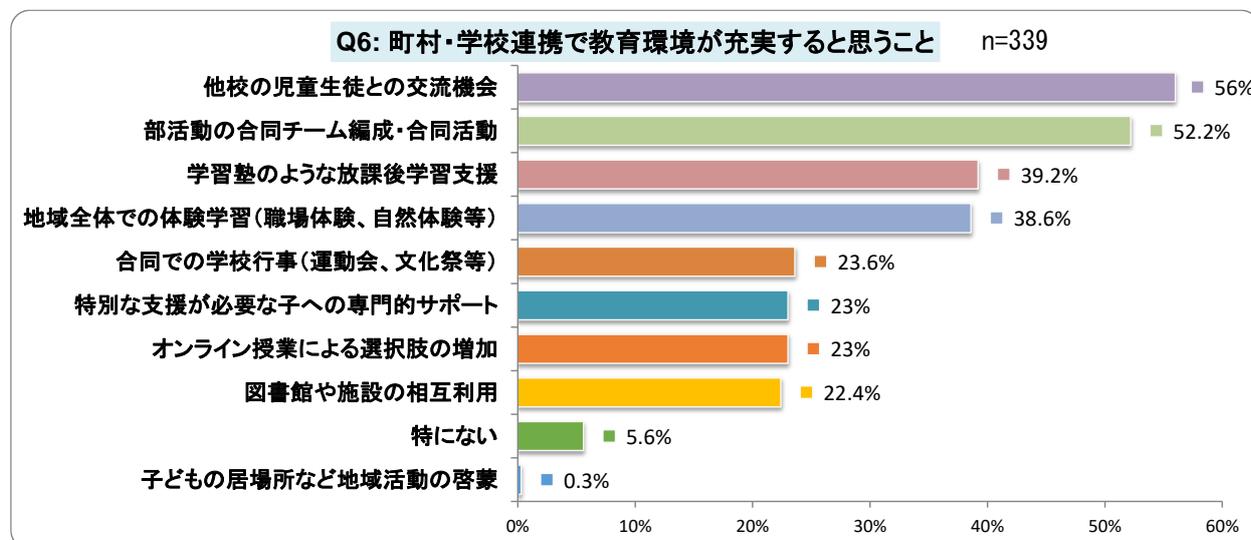
### 【居場所・インクルーシブ教育】

- ・学童を冬休みも開放してほしい。
- ・夏休み、春休み、冬休みの学童のお昼ご飯を出してほしい。
- ・インクルーシブな意識や環境づくり。
- ・特別な支援が必要な子への対応は、もう少し踏み込んだ支援がほしい。
- ・市民活動としての第三の居場所がない。学校以外の居場所作り。
- ・民間学童や、学校以外の場所の学童を開設。

## 2-3 広域連携による教育環境の充実について

### Q6 複数の町村・学校連携で教育環境が充実すること（複数回答）

広域連携により教育環境が充実することとして、「他校の児童生徒との交流機会」が56.0%で最も多く、次いで「部活動の合同チーム編成・合同活動」が52.2%、「学習塾のような放課後学習支援」が39.2%となっている。



### Q7 複数の町村・学校連携で教育環境が充実すると思う具体的内容（自由記載）

回答数 164 件 カテゴリー別に主な意見を記載

#### 【交流機会の充実】

- ・他校の子と交流することで様々な人と関わるチャンスができる。
- ・児童数が減る中で、各町村内の生徒数だけでは行えない行事や活動も、合同ならば実施できる可能性が高くなると思う。

#### 【部活動の連携】

- ・部活動の選択肢が広がる。
- ・各学校単体で部活チームが組めることがままならなくなってきたので、広域で活動する事はとても意義がある。
- ・部活動は地域移行（展開）になり練習の機会が減っていると感じる。サポート体制を整えてほしい。何もしない子が増える事が懸念される。

#### 【学習支援】

- ・塾が木曾地域には無いので、充実してほしい。
- ・放課後の学習支援が積極的にあると子どもたちの学習意欲が出ていいと思う。
- ・図書館や、使わない会議室などを開放して、自習室を増やしてほしい。
- ・より専門に強い先生から学ぶ機会を得られる。

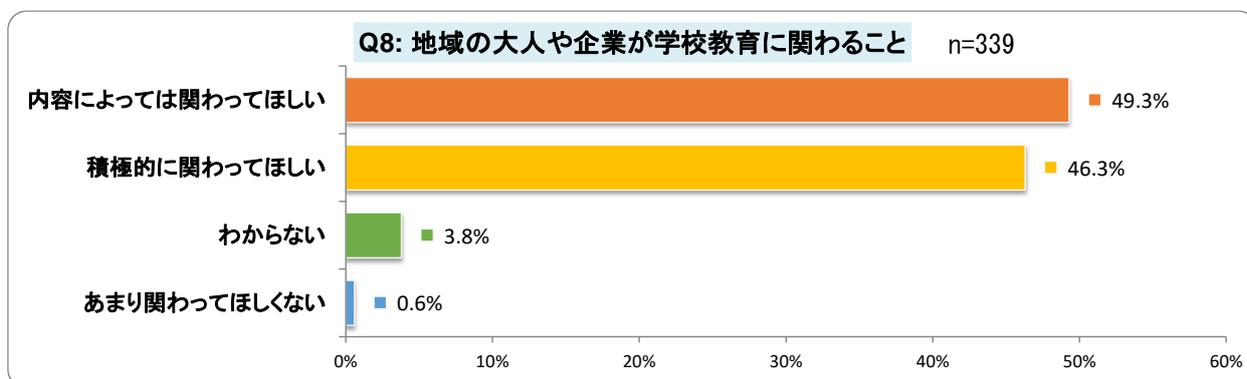
#### 【その他】

- ・木曾地域は面積が広大なため、連携しようにも移動時間がネック。
- ・地域でバスをだして、行き来できるようになればよい。
- ・小さいうちから広い視野で広い人たちとの関わりを持ってほしい。
- ・家庭環境などフォローが必要な家庭に、子供の居場所がほしい。
- ・広い範囲で地域を知る機会がある事により、親しみをより感じ、将来の選択肢も広がる。
- ・図書館等施設の相互利用。

## 2-4 地域との連携について

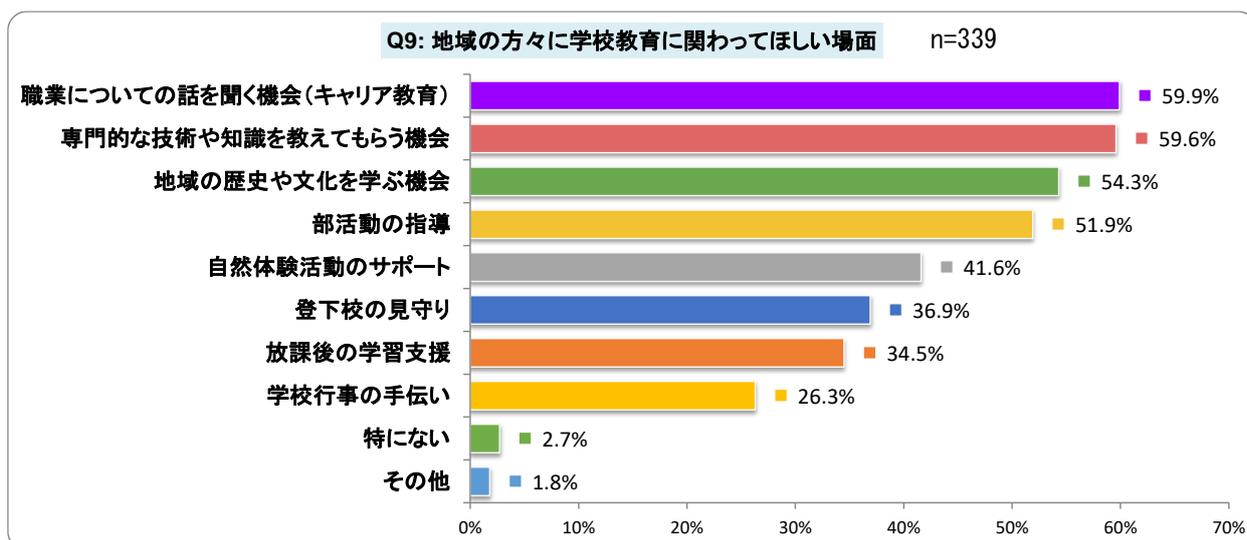
### Q 8 地域の大人や企業が学校教育に関わることについての考え

地域の大人や企業が学校教育に関わることについて、「内容によっては関わってほしい」が49.3%、「積極的に関わってほしい」が46.3%と、合わせて95.6%が肯定的な回答となっている。



### Q 9 地域の方々に学校教育に関わってほしい場面（複数回答）

地域の方々に関わってほしい場面として、「職業についての話を聞く機会（キャリア教育）」が59.9%で最も多く、次いで「専門的な技術や知識を教えてもらう機会」が59.6%、「地域の歴史や文化を学ぶ機会」が54.3%となっている。

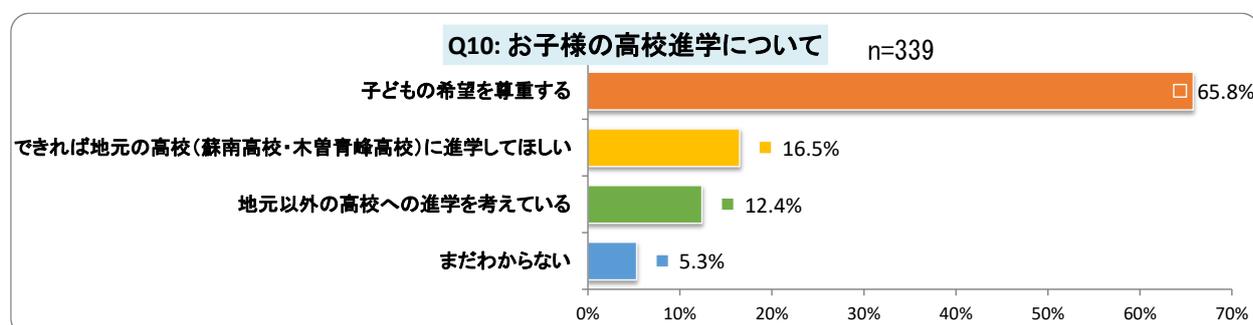


「その他」の主な内容：学校・通学路の環境整備、休日、地域文化の継承、多様な関わり方があるなど

## 2-5 地元高校への進学について

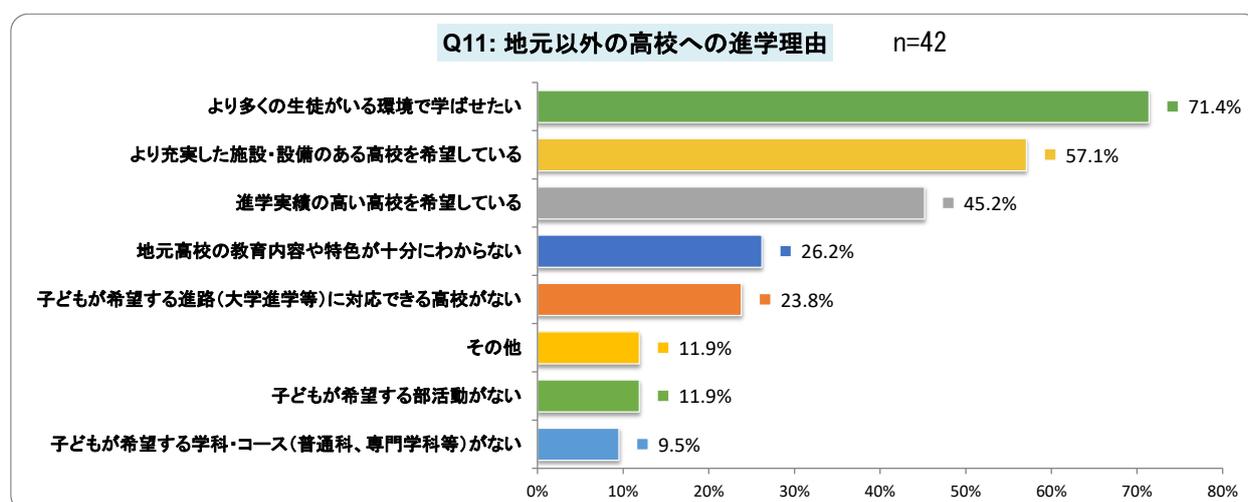
### Q10 お子様の高校進学についての考え

高校進学について、「子どもの希望を尊重する」が65.8%で最も多く、「できれば地元の高校に進学してほしい」が16.5%、「地元以外の高校への進学を考えている」が12.4%となっている。



### Q11 地元以外の高校への進学理由

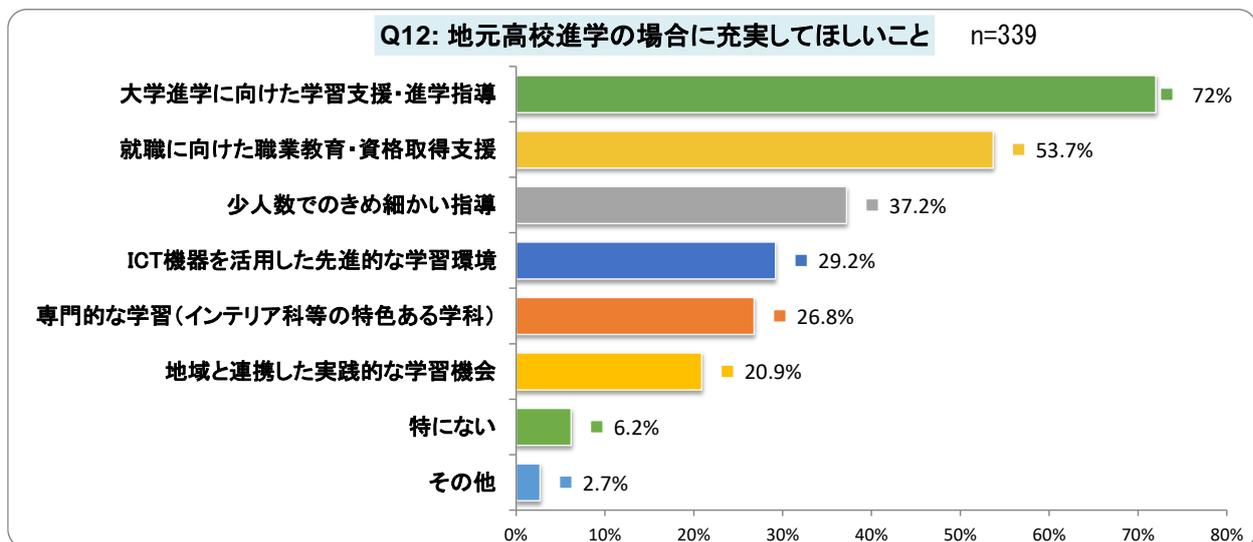
地元以外の高校への進学を考えていると回答した理由として、「より多くの生徒がいる環境で学ばせたい」が71.4%で最も多く、次いで「より充実した施設・設備のある高校を希望している」が57.1%となっている。



「その他」の主な内容：定員割れで環境が乏しい、小中高同じで人間関係づくりに弱くなるなど

### Q12 地元高校進学の場合に充実してほしいこと（複数回答）

地元高校で充実してほしいこととして、「大学進学に向けた学習支援・進学指導」が72.0%で最も多く、次いで「就職に向けた職業教育・資格取得支援」が53.7%、「少人数でのきめ細かい指導」が37.2%となっている。



「その他」の主な内容：地域特性を活かした学習、全国レベルの学習、総合型選抜受験を見越した地域活動の充実・コミュニティスクールの構築など

## 2-6 その他

Q13 近隣町村・学校との連携により子どもたちの学びが豊かになること、日ごろ感じていること。（自由記載）

回答数 107 件 カテゴリー別に主な意見を記載

### 【少人数教育の課題と対応】

- ・地域ごとに学習の差ができないように連携できればと思う。
- ・人数が少ないと高校などへ行った時のギャップが大きい。小、中のうちから他学校の生徒と交流する機会があるといいと思う。
- ・進学や就職などでより大きな集団に入ったときに戸惑わないためにも、義務教育の段階から「多様な人と学ぶ経験」を意識的に設けてほしい。

### 【部活動】

- ・木曾郡をみても子どもが減少しているため、部活動等は合同等にして強化してほしい。
- ・子ども達がやりたいスポーツをやれる環境が大切。木曾郡全体の課題として全体で考えていく必要がある。
- ・部活動の地域移行（展開）により、放課後の時間何もしない子が増える事が懸念される。子供達の「やりたい」を叶えてあげられるように大人は努力するべき。保護者の送迎が難しく部活動を諦める子もいる。

### 【高校進学・進路指導】

- ・郡内の高校の進学実績が芳しくなく、子どもが満足する指導を受けられるのか不安。
- ・松本などの進学校へ進む選択もあるなら、早い段階で、どれくらいの学力が必要か、進学はどうするのがいいか、など相談する機会がほしい。
- ・南木曾は町内に高校があるのに町外に出してしまう子が多い。一番は部活動の魅力の無さ。少人数で難しいこともあると思うが、何か取り組みをしないと先が見通せなくなる。
- ・キャリアアップまたはコミュニティスクールに関して、木曾は長野県の中で遅れている。
- ・高校を卒業して、一度都会の大学や社会に出たとしても、大人になって戻って来たくなくなるような学習につながる体験をどんどんしてほしい。

### 【教員・指導体制】

- ・ 近隣町村・学校のよい取り組みは積極的に取り入れていくのがよい。
- ・ ここ数年若い先生の割合が多くなり、学習面以外の指導が行き届かないように感じる。
- ・ 行事だけでなく、普通の授業でも交流し、教え方・取り組み方も違う事を学んでもいい。
- ・ 木曽だからできることや、少人数なので丁寧な学習指導などがあって欲しい。山間地に住んでいる子たちをもっと大切にしたい。
- ・ 複式学級は先生の負担が大き過ぎる。

### 【送迎・交通手段】

- ・ この地域の問題点は、公共交通機関が脆弱なこと。この基盤を底上げしなければ、子どもたちの自由な移動が妨げられ、学びのチャンスロスが発生させてしまう。
- ・ 居住地に関係なくスクールカー等を柔軟に利用できるようなになれば、課外活動や放課後の学びの選択肢が広がり、子どもたちの学びがより充実するのではないかな。
- ・ 社会人が指導するクラブ活動は、開始時間が遅いクラブもあり、学校帰りに直接行けるとよい。一度帰宅すると遠距離の子はクラブに参加できず、近くの子と能力に差が出てしまう。

### 【ICT教育・タブレット活用】

- ・ タブレットで宿題を確認したり、タブレットを使って授業を受けて提出物も提出するような取り組みがたくさんあるとよい。
- ・ ICT教育は小学生のうちあまり積極的に使わず、もっと文字や文章を手で書く時間を長くとってほしい。
- ・ 運動会や音楽会は、オンラインを活用し、練習の負担を増やさず合同開催できるとよい。

### 【木曽の魅力・郷土愛の育成】

- ・ 子どもたちが木曽の自然や文化を生かした体験をたくさんすることで、郷土への愛着が生まれ、将来、子育てするなら木曽でと思ってくれるとよい。
- ・ FabLabを整備して、木工などにレーザーカッターなど最新の加工装置を使う体験が、林業など地場産業への興味につながると思う。
- ・ 木曽は作家さんも多いので、アトリエを見せてもらってお話を聞いたり、子どもたちも実際手を動かし自分で創作することも良い経験になると思う。

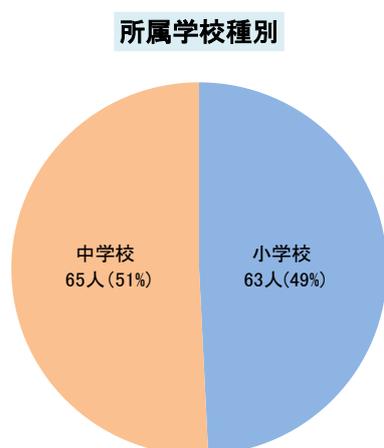
### 【インクルーシブ教育・子どもの居場所】

- ・ 障がい児に対する学校側のインクルーシブ意識。
- ・ 障がい者に対しての支援、理解がなく、学校に行かせるのが苦痛。その辺りを充実してもらいたい。
- ・ 放課後支援や部活動、習い事等で居場所を確保したり、個人の特性を活かせる・伸ばしていけるところが無さすぎる。
- ・ 子どもが学校へ行きたくなくないときに村では他に居場所がない。木曽全体でいろんなコミュニティーがあってもっと参加できるとよい。

## 第3章 教職員アンケート結果

### 3-1 回答者属性

本アンケートは、木曾地域の小・中学校教職員を対象に実施し、128件の回答を得た。対象者総数231人に対する回答率は55.4%であった。



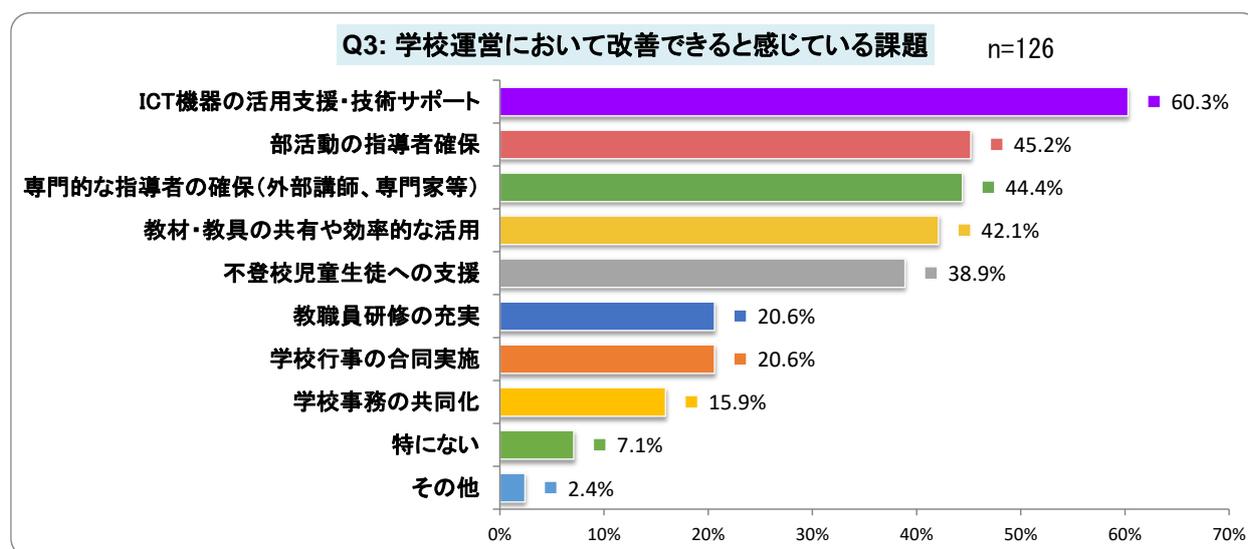
職種別

職種	人数	割合(%)
教員	106	82.8%
その他(事務・学習支援員・図書館司書・講師・養護教諭・栄養士)	22	17.2%

### 3-2 広域連携による支援ニーズについて

#### Q3 学校運営で町村・学校連携や地域支援により改善できると感じている課題（複数回答）

学校運営の課題として、「ICT機器の活用支援・技術サポート」が60.3%で最も多く、次いで「部活動の指導者確保」が45.2%、「専門的な指導者の確保（外部講師、専門家等）」が44.4%となっている。



「その他」の主な内容：特別な支援を必要とする児童・家庭のサポート、教職員の増

#### Q 4 学校運営で必要な町村・学校連携や地域支援の具体的内容（自由記載）

回答数 94 件 カテゴリー別に主な意見を記載

##### 【ICT支援・活用】

- ・ICT 支援員の確保は喫緊の課題。（インターネット出願・生成A I の活用・リモート会議などの対応）
- ・タブレットやアプリの郡内統一化。
- ・木曾町が先行して校務D Xをすすめているが、他町村学校との連携がとりにくくなった。木曾郡内広域で ICT 環境を整備してほしい。
- ・学校間リモート授業やリモート会議、教職員研修のオンライン受講。

##### 【部活動・地域移行（展開）】

- ・部活動を地域移行（展開）するうえで、金銭的な面や指導者の負担が多くなならないような支援。保護者が混乱しないための支援。
- ・社会体育・文化活動の時間帯に合わせたバス運行の郡北部便、郡南部便等、同種目（活動）の複数拠点の設置。
- ・部活動で地域移行（展開）できるための指導者の確保。
- ・町村間で連携を図り、地域を越えて参加できる窓口が設けられること。

##### 【教材・施設の共有】

- ・人材不足を少しでも改善するための情報共有。
- ・グループウェアなどのコミュニケーションツールを通じて、郡内教職員間の情報共有や、文書保存など、教育活動の効率化、教職員の負担軽減につながると良い。
- ・教材や教具の共有、実践事例の共有。
- ・教材は、高価格の備品の一括購入、共有。

##### 【人材確保】

- ・外部講師をリスト化し、共有する。
- ・地域教材（人材）の活用。
- ・外部講師について広域で依頼し、指導していただく。（キャリア教育、性に関する指導、薬物乱用防止教育など）
- ・音楽や体育、図工などの教科を外部講師に依頼する。

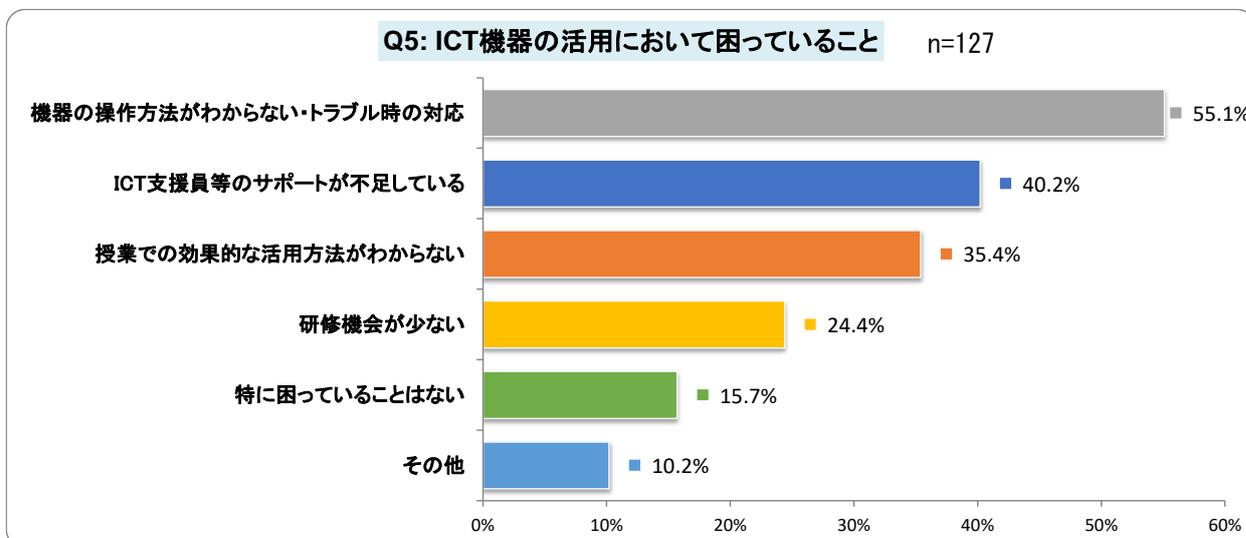
##### 【その他】

- ・「このことなら、ここに相談すれば解決できる」と見通しが持てる組織化、総合的な相談窓口
- ・特別な支援を要する児童の指導や支援、悩みを気軽に共有したり、相談できる場。
- ・不登校児童など児童生徒が学校以外で通学できる場所の整備。
- ・学校の教育活動に地域の方も関わることができたらよい。
- ・教員不足が解消される方向で改善されていくと良い。
- ・キャリア教育を一層充実させるために、木曾全体でキャリアフェスの実施。
- ・地域にある課外活動に子どもが参加する。

### 3-3 ICT 活用について

#### Q 5 ICT 機器の活用において困っていること・不安に感じていること（複数回答）

ICT 活用の困りごととして、「機器の操作方法がわからない・トラブル時の対応」が 55.1%で最も多く、次いで「ICT 支援員等のサポートが不足している」が 40.2%、「授業での効果的な活用方法がわからない」が 35.4%となっている。



「その他」の主な内容：相談窓口がわからない、端末・OS 変更時の事前情報不足、子どものタブレット適正利用に関する指導、ICT 活用環境の整備など

#### Q 6 ICT 活用における広域連携のニーズ（自由記載）

回答数 64 件 カテゴリー別に主な意見を記載

##### 【支援員配置・サポート】

- ・ ICT 支援員の各校配置。トラブル発生時の対応。
- ・ 年度末、年度初の教頭サポート。c4th など様々な切り替え、登録、設定のサポート。
- ・ 広域で使えるスペースの管理運営、教職員の研修の場の整備。
- ・ 木曾町と他町村との教育の情報化システムの統一、ICT 支援員の各校への配置の充実。
- ・ 授業での ICT 活用、ICT を使った全国学力調査などの問題配信の仕方・解答方法などの研修の実施。支援員による児童・生徒への指導。

##### 【機器・環境整備】

- ・ 郡内のネットワークの共有化により、クラウド上での教材等の共有。
- ・ 何か不具合が起きたときに、気軽に相談できる場所が欲しい。
- ・ 町村ごとではなく、広域で持続可能やネットワークシステムの構築を、長期的な展望で整えていくことが大事。

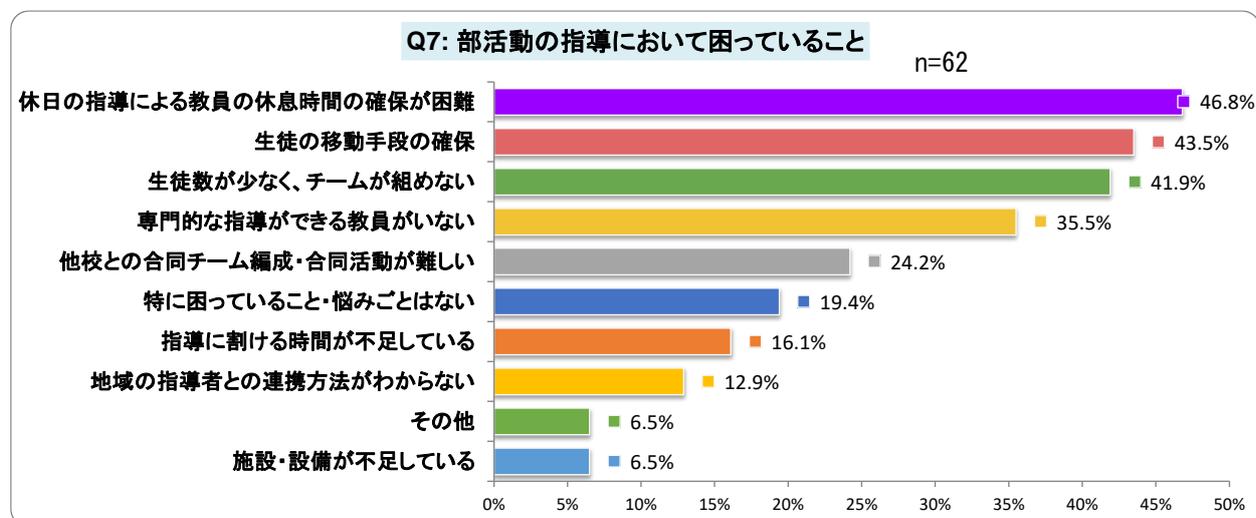
##### 【その他】

- ・ グループウェアの活用、チャットアプリなどを通じたグループ別のコミュニケーションツールの活用。
- ・ Zoom 等の遠隔交流アプリで相談ができる環境があると良い。
- ・ 実際に授業で活用した事例を共有できるとよい。
- ・ 同一の学習教材を使用して、連携・研究できるとよい。

### 3-4 部活動について

#### Q7 部活動の指導において困っていること

部活動指導の困りごととして、「休日の指導による教員の休息時間の確保が困難」が46.8%で最も多く、次いで「生徒の移手段の確保」が43.5%、「生徒数が少なく、チームが組めない」が41.9%となっている。



「その他」の主な内容：指導者選定・活動実態監督の町村教委に、文化部の指導者不足

#### Q8 部活動の地域移行（展開）に関し広域連携でできること（自由記載）

回答数 34 件 主な意見を記載

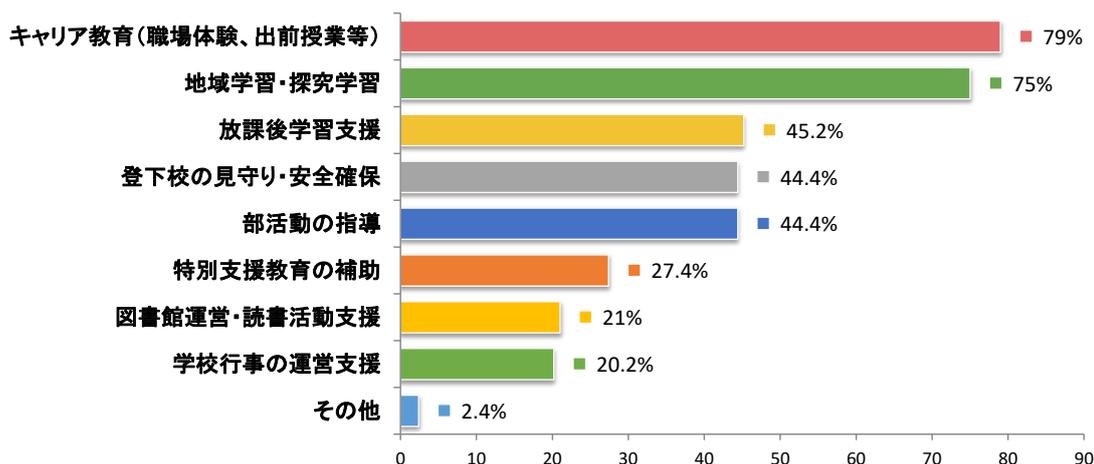
- ・各クラブの現場任せではなく、取りまとめる機関があるとよい。
- ・広域で練習できる場所や機会や輸送の支援
- ・いずれ生徒数が減少する、5・6年後を見つめての検討が必要。移手段、交通費支援をどうするか。
- ・地域の指導者への配慮（職場、保護者）の啓蒙
- ・郡スポーツ協会との連携
- ・指導者の確保
- ・指導者への福利厚生や手当てが充実すれば指導者の確保がより円滑になる。
- ・木曾郡全体を母体とした、地域クラブチームの発足。

### 3-5 地域との連携について

#### Q9 地域住民や企業等との連携で教育活動が充実すると思われる分野（複数回答）

地域連携で充実すると思われる分野として、「キャリア教育（職場体験、出前授業等）」が79.0%で最も多く、次いで「地域学習・探究学習」が75.0%、「放課後学習支援」が45.2%となっている。

Q9: 地域住民や企業等との連携で教育活動が充実する分野 n=124



「その他」の主な内容：不登校児支援、教科活動など

Q10 地域や企業連携で取り組みたい事、連携を推進するために必要な支援（自由記載）

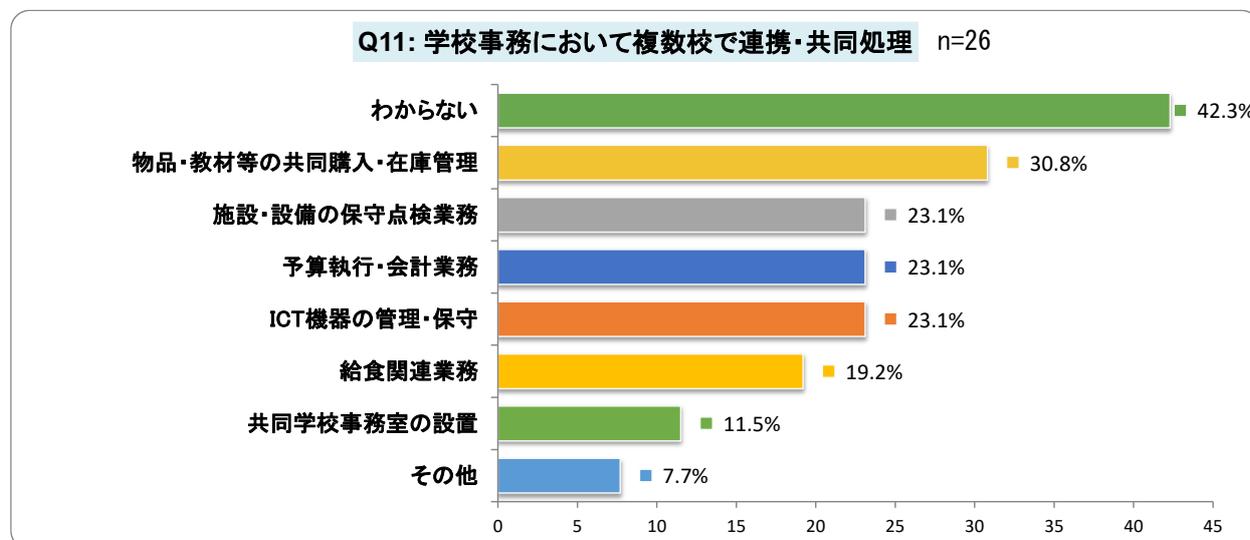
回答数 46 件 主な意見を記載

- ・中学校区が広がることによる不登校の子などを家から出すことのできる場所の支援。
- ・特別支援を中心とした、支援員を増やしてほしい。
- ・地域の方々に学校行事に参加して頂き、教育活動の具体を知って頂きたい。
- ・総合的な学習の時間などへの参加、支援。
- ・木曽版の人材バンクの整備。地域の方との相談窓口として機能してもらいたい。
- ・地域住民や企業の方々などと子どもたちで考えられる場面があってもよい。
- ・コーディネーターが必要。学校職員に任せると持続させていくのは難しい。
- ・地域講師を組織し、放課後学習会などの学習支援。
- ・職場体験可能な事業所一覧の整備。
- ・キャリア教育。地域人材バンク登録を効果的に運用できるようにしたい。
- ・放課後に生徒が利用できる学習スペースの整備（チューターがいれば理想的）。

### 3-6 学校運営（事務部門）の広域連携について

#### Q11 学校事務において複数校連携・共同処理で効率化できる業務（複数回答）

学校事務の広域連携については、「わからない」が42.3%で最も多く、次いで「物品・教材等の共同購入・在庫管理」が30.8%となっている。具体的なイメージを持ちにくい状況がうかがえる。



「その他」の主な内容：手当の認定・給与関係業務、効率化できる業務はない

#### Q12 学校事務の広域連携の推進にあたり必要な支援等（自由記載）

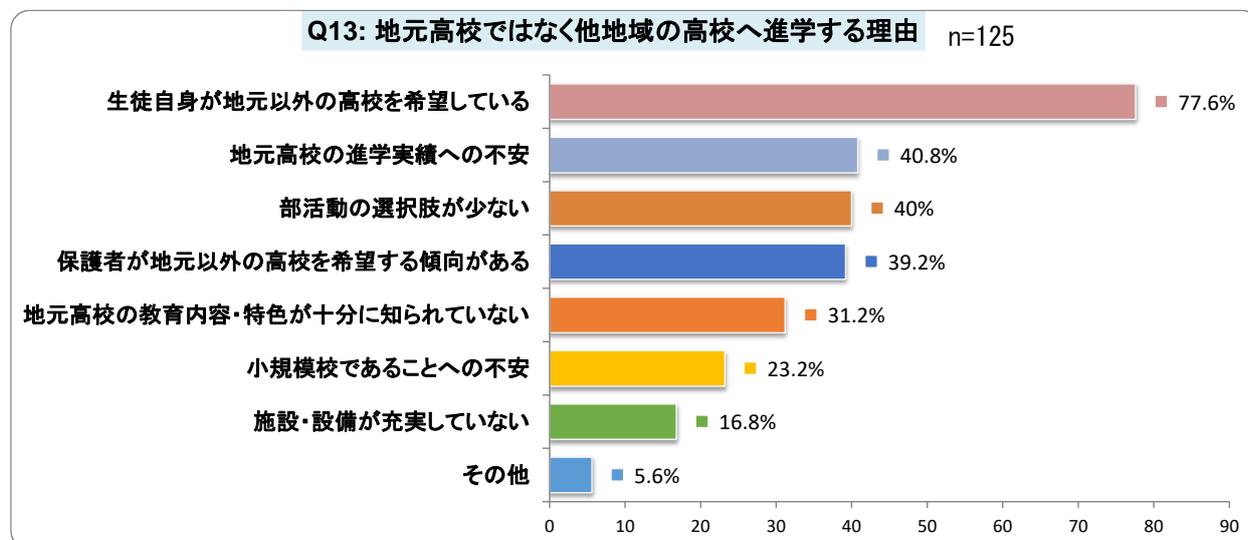
回答数 13 件

- ・貸し出しタブレットの統一のマニュアル作成。
- ・離れた学校との連携はできることが少ないと思う。
- ・先行実施の塩尻市では現場の先生方の評価がよくないと聞いた。
- ・町村間で予算編成や事務処理手続きに違いがあるため、広域連携を進めることで負担が増える。
- ・個人情報を多く取り扱うので、連携する場合は情報漏えいに十分注意が必要。
- ・木曾郡は広域のため、頻繁に集まる事が難しい。
- ・チャットなどの手軽な連絡手段の確保を続けて欲しい。
- ・統廃合で、余剰となった備品の郡全体での情報共有。

### 3-7 地元高校への進学について

#### Q13 地元高校ではなく他地域の高校へ進学する理由（複数回答）

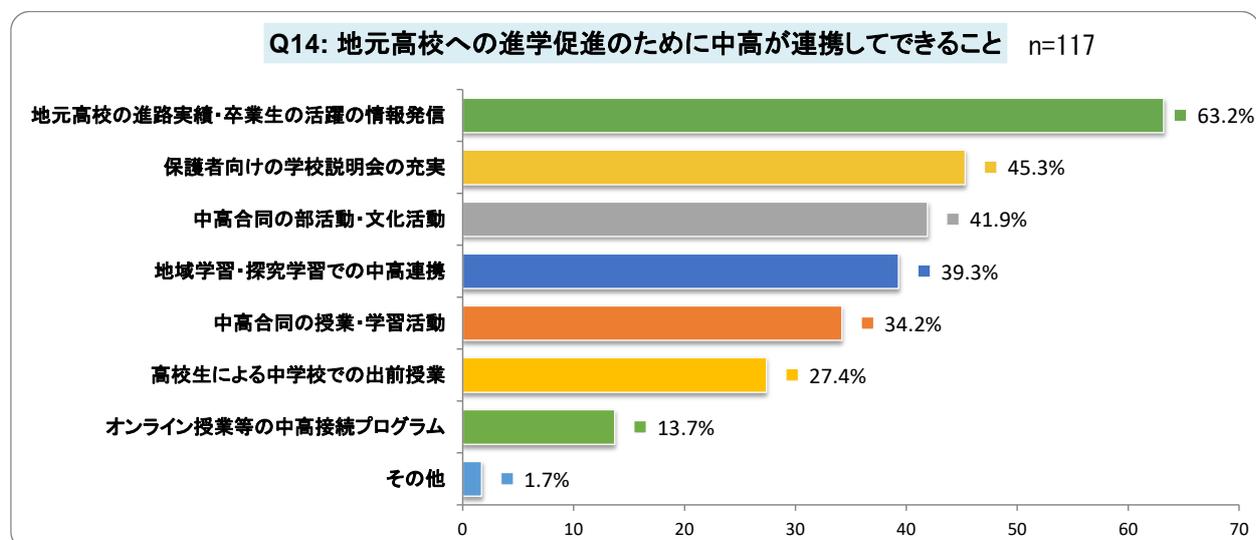
地元以外への進学理由として、「生徒自身が地元以外の高校を希望している」が77.6%で最も多く、次いで「地元高校の進学実績への不安」が40.8%、「部活動の選択肢が少ない」が40.0%となっている。



「その他」の主な内容：都市部・進学校への憧れ、イメージだけで郡外を選ぶ、大学進学や部活動の大会実績など

#### Q14 地元高校への進学促進のために中高が連携してできること（複数回答）

中高連携でできることとして、「地元高校の進路実績・卒業生の活躍の情報発信」が63.2%で最も多く、次いで「保護者向けの学校説明会の充実」が45.3%、「中高合同の部活動・文化活動」が41.9%となっている。



「その他」の主な内容：他地域からの生徒確保

### Q15 地元高校の魅力を高めるため、地域全体で取り組めること（自由記載）

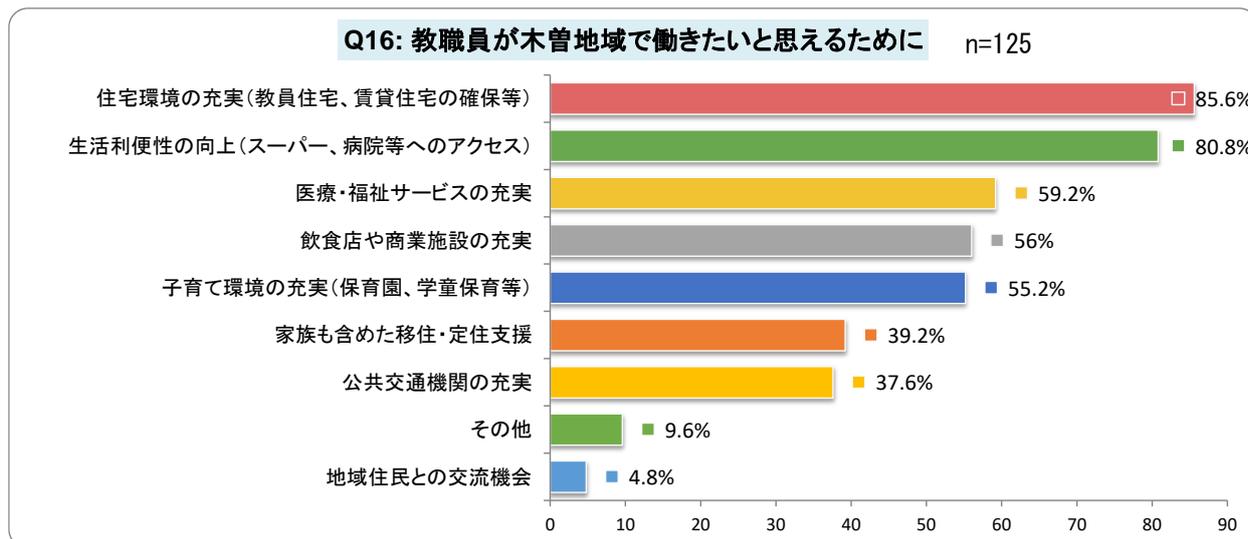
回答数 42 件 主な意見を記載

- ・地元高校から世界や社会に貢献する卒業生を生み出すためのカリキュラムを地域とともに作り上げること。
- ・私学に対抗できるだけの超特進コースの創設、難関大学進学を見据えた個別学習プログラムの実施。
- ・地元高等学校の魅力の発信を積極的に行う。
- ・地元の高校の魅力を高める。「この学校でしかこれは経験できない」という活動を作る。
- ・中学生が、各高校のよさを充分把握できていない。高校生自身が、がんばっている姿を中学生に紹介する場があるとよい。
- ・木曾郡以外の地域の生徒を確保するために地元高校の魅力を県全体に発信する。
- ・高校の行事や学習活動に中学生（1～3年）が参加できる機会があるとよい。
- ・木曾町中では、木曾青峰高校と探究学習と部活動で中高連携をしている。

## 3-8 その他

### Q16 教職員が木曾地域で働きたいと思えるために必要なこと（複数回答）

教職員が木曾地域で働きたいと思えるために必要なこととして、「住宅環境の充実（教員住宅、賃貸住宅の確保等）」が 85.6%で最も多く、次いで「生活利便性の向上（スーパー、病院、金融機関等へのアクセス）」が 80.8%、「医療・福祉サービスの充実」が 59.2%となっている。



「その他」の主な内容：賃金アップ、教職員住宅の環境改善、木曾で働くことの良さをPR など

### Q17 近隣町村・学校連携により子どもたちの学びより豊かになること、日頃感じていること（自由記載）

回答数 41 件 主な意見を記載

- ・エアコンの設置や適切な使用について検討してほしい。
- ・課外授業・校外学習の時の移動方法（バスなど）を充実させ、教員が気軽に校外での学びを計画できるようになるとよい。

- ・木曾病院の産科、小児科は困る問題。
- ・木曾に赴任する教員が少しでも住みやすいと感じられるような準備は必要。
- ・教師が積極的に木曾の地域の良さについて学び、発信すること。
- ・「地域の中の学校」という意識を地域全体で持ち、「木曾ならではの」のカリキュラムの構築が重要。
- ・中学校部活動地域移行（展開）は、オール木曾で取り組めるシステムにしてほしい。
- ・木曾郡内には大勢の協力してくださる方がいらっしゃるなので、町村の垣根を越えて連携できるとよい。
- ・今後は教職員研修会など、木曾より大きな地域で考えることが必須となってくる。
- ・教職員が働きたいと思えるようブログで情報発信をしている。
- ・教師が知らない地元情報、地域素材（教材）の情報提供をしてもらえるとありがたい。
- ・地域が大変協力的。学校行事にも積極的に関わってくれている。
- ・授業や教室環境のUD化は、情報共有と連携ができるとよい。

## 第4章 調査結果の総括と提言

### 4-1 主要な調査結果

本調査は、木曾郡内の小・中学校保護者 339 件(回答率 25.9%)及び教職員 128 件(回答率 55.4%)を対象に実施し、学びの環境整備に向けた広域連携の推進について、現場の多様な意見とニーズを把握することができました。以下、調査から得られた主要な結果を5つの観点から総括します。

#### 1 部活動の広域連携と地域移行（展開）の推進

保護者アンケートでは、学校の授業以外で充実していると良いこととして「課外活動(部活動等)の種類・選択肢の充実」が 53.7%で最も多く、次いで広域連携により教育環境が充実すると思うこととして「部活動の合同チーム編成・合同活動」が 52.2%と過半数を占めました。

教職員アンケートにおいても、学校運営の課題として「部活動の指導者確保」が 45.2%で2番目に多く、部活動指導における困りごととして「休日の指導による教員の休息時間の確保が困難」(46.8%)、「生徒の移動手段の確保」(43.5%)、「生徒数が少なく、チームが組めない」(41.9%)が上位を占めています。

自由記述からは、少子化により各学校単独ではチーム編成が困難になっている現状、部活動の選択肢が限定的であること、地域移行への自治体サポート不足(特に送迎バス)、スクールバスの時間制約による練習時間の短縮など、構造的な課題が浮き彫りになりました。特に「町村単独では限界があるので、郡全体であり方を検討してほしい」「部活動を諦める子が増え、何もしない子が増える事が懸念される」といった切実な声が多数寄せられており、木曾郡全体として子どもたちが「やりたい活動」に取り組める環境を確保していく必要性が明確になりました。

#### 2 ICT 活用支援体制の整備

デジタル化が進展する教育現場において、ICT 活用支援の体制不足が深刻な課題として認識されています。教職員アンケートでは、学校運営で町村・学校連携や地域支援により改善できると感じている課題として「ICT 機器の活用支援・技術サポート」が 60.3%で最も多く、最優先課題として位置づけられています。

具体的な困りごととしては、「機器の操作方法がわからない・トラブル時の対応」が 55.1%、「ICT 支援員等のサポートが不足している」が 40.2%、「授業での効果的な活用方法がわからない」が 35.4%となっており、操作技術面と活用方法面の両面での支援ニーズが高い状況です。

自由記述では、「ICT 支援員の各校配置の充実」「木曾町が先行して校務 DX を進めているが、他町村学校との連携がとりにくくなった」といった指摘があり、町村間で ICT 環境の整備状況に格差が生じている実態が明らかになりました。インターネット出願、生成 AI 活用、リモート会議など、ICT の用途が多様化・高度化する中で、教職員への実践的なサポート体制の構築が求められています。

#### 3 地域連携による多様な学びの機会創出

地域の大人や企業が学校教育に関わることについて、保護者の 95.6%が肯定的(「積極的に関わってほしい」46.3%、「内容によっては関わってほしい」49.3%)であり、地域連携に対する期待の高さが示されました。

具体的に関わってほしい場面としては、保護者側では「職業についての話を聞く機会(キャリア教育)」(59.9%)、「専門的な技術や知識を教えてもらう機会」(59.6%)、「地域の歴史や文化を学ぶ機会」(54.3%)が上位を占めました。教職員側でも「キャリア教育(職場体験、出前授業等)」(79.0%)、「地域学習・探究学習」(75.0%)が突出して高く、両者のニーズが一致しています。

自由記述において「地域の企業や自治体職員だけでなく、フリーランス、女性のキャリア、移住して働く人、海外で働く人など、多様な働き方や生き方に触れられる機会がほしい」といった、より広い視野でのキャリア教育を求める声が複数あり、木曾の自然や文化を活かした体験学習への期待とともに、多様な世界に触れる機会が求められています。

#### 4 学習支援と多様な子どもの居場所づくり

木曾地域には学習塾が少ないことから、放課後の学習支援に対するニーズが高い状況です。保護者アンケートでは「放課後の学習支援」が36.6%、広域連携により充実すると思うこととして「学習塾のような放課後学習支援」が39.2%となっており、教職員側でも「放課後学習支援」が43.8%と高い割合を示しています。

自由記述では「都市部と比べ学習支援は弱い。教員の負担にならない放課後の学習支援があると良い」「塩尻まで通うには送迎しなくてはならない」「授業で理解できなかったところを質問できる時間や場所がほしい」など、学習機会の地域格差を懸念する声が多数寄せられました。

また、本調査では特別な支援を必要とする児童や不登校児童への対応、子どもの居場所づくりに関する意見が多く寄せられました。「インクルーシブな意識や環境づくり」「特別な支援が必要な子への対応は、もう少し踏み込んだ支援がほしい」といった声や、「第三の居場所がない」「子どもが学校へ行きたくないときに村では他に居場所がない」といった切実な訴えがありました。

学童保育についても「冬休みも開放してほしい」「昼食を出してほしい」「民間学童の開設」など、拡充を求める声が複数あり、多様な子どもたちが安心して過ごせる居場所の確保が重要な課題として認識されています。

#### 5 地元高校の魅力向上と進学・就職のサポート体制

高校進学について、保護者の65.8%が「子どもの希望を尊重する」と回答する一方で、地元高校で充実してほしいこととして「大学進学に向けた学習支援・進学指導」が72.0%で最も多く、次いで「就職に向けた職業教育・資格取得支援」が53.7%となっており、進学・就職のサポート体制に関する期待が高い状況です。

教職員アンケートでは、地元以外への進学理由として「生徒自身が地元以外の高校を希望している」が77.6%で最も多いですが、「地元高校の進学実績への不安」(40.8%)、「部活動の選択肢が少ない」(40.0%)も高い割合を示しています。

自由記述では「郡内の高校の進学実績が芳しくなく、子どもが満足する指導を受けられるのか不安」「南木曾は町内に高校があるのに町外に出てしまう子が多い。一番は部活動の魅力の無さ」といった厳しい指摘がある一方で、「木曾町中では、木曾青峰高校と探究学習と部活動で中高連携をしている」といった先進的な取り組みも報告されています。

中高連携でできることとして「地元高校の進路実績・卒業生の活躍の情報発信」(63.2%)、「保護者向けの学校説明会の充実」(45.3%)、「中高合同の部活動・文化活動」(41.9%)が上位となっており、地元高校の魅力を高めるための具体的な方策として「超特進コースの創設」「難関大学進学を見据えた個別学習プログラム」「この学校でしかこれは経験できないという活動」「木曾郡以外の地域の生徒を確保するための魅力発信」などの提案がされています。

## 4-2 提言

本調査により、木曾地域の学びの環境に関する多様な課題とニーズが明らかになりました。保護者及び教職員の皆様から寄せられた意見を踏まえ、今後の広域連携による取組みを以下の3つの方向性で整理し、関係機関の主体的な取組を尊重しつつ、必要に応じて情報提供や意見整理を行っていきます。

### 【方向性1】町村や広域連合、県等における主体的な検討の深化

「1 部活動の広域連携と地域移行（展開）の推進」や「2 ICT活用支援体制の整備」については町村、県、広域連合において検討が進められていることから、今後は本調査データを基礎資料として活用し、さらに具体的な取組みを推進していくことが期待されます。

#### 部活動の地域移行（展開）

部活動の地域移行（展開）については、町村ごとの検討状況や、県における地域クラブ活動指導者登録制度、地域移行（展開）に向けた公共ライドシェア等の活用検討など、各検討状況を注視しつつ、関係機関の検討の深化に資する基礎資料の提供及び情報共有をしていくことを提言します。

#### 【想定される対応策】

- ・社会体育・文化活動に合わせた郡北部・郡南部のバス運行や、既存スクールバスの活用による移動手段の確保
- ・指導者への手当や福利厚生の実施による安定的な人材確保
- ・町村を越えた地域クラブ参加窓口の設置と、活動実態を監督する体制の構築

#### ICT活用環境の整備推進

木曾広域連合木曾広域情報センターの自治体DX/ICT利活用計画推進のための部会において本調査結果の意見を踏まえ、さらに検討を深化していくことが期待されます。

また、ICT支援員の配置等、学校現場におけるサポート体制はまだまだ十分とは言えないことから、国制度の活用など支援の拡充を研究していく必要があります。

学習支援においても、ICT活用によるオンライン学習といった先行事例の郡内展開などが期待されます。

#### 【想定される対応策】

- ・ICT支援員の配置拡充
- ・授業でのICT活用、全国学力調査のCBT対応、生成AI活用など実践的な研修の実施
- ・相談窓口の明確化（ヘルプデスクの設置）によるトラブル発生時の支援体制整備
- ・学校等と連携した、オンライン学習支援の検討

### 【方向性2】住民団体・企業との協働による「地域連携推進分科会」の設置

「地域連携による多様な学びの機会創出」や「多様な子どもの居場所づくり」については、地域住民団体や企業との協働によって実現の可能性が高まると考えられます。「地域連携推進分科会」を設置し、住民団体・企業ほか多様な関係者が調査で明らかになった具体的なニーズを基に、先進事例の調査・研究、モデル事業の実施など、具体的な取組みを進めていくことを提言します。

【想定分科会構成員】 住民団体、商工関係団体、地元企業等

## 地域連携による多様な学びの機会創出

### 【想定される対応策】

- ・多様な講師ニーズ(フリーランス、移住者、海外経験者、地域の作家・職人等)が明らかになったことを踏まえ、地域人材をリスト化し学校と共有する仕組みの構築
- ・学校と連携した職場体験・出前授業の広域連携
- ・地域学習・探究学習における企業や住民の積極的な関与
- ・キャリアフェスティバルの広域開催

## 多様な子どもの居場所づくり

### 【想定される対応策】

- ・不登校児や特別な支援が必要な子どもが通える第三の居場所の整備

## 【方向性3】地元高校と地域振興局・町村との連携による地域全体への啓発と情報発信の強化

「地元高校の魅力向上」は、適切な情報提供により地元高校を選択肢として認識してもらう取組みが必要です。地域振興局・町村等と連携し、既存のイベントや広報媒体を活用し、発信の機会を増やしていくが考えられます。「地元高校の魅力向上」を進めるとともに、地元高校を、地域みんなで大切に守り育てていくという意識を、地域全体で共有していくことが重要です。情報発信の主体を学校だけに限定せず、地域振興局や町村が一体となり、「木曾で学ぶことの意義や魅力」と「将来の選択肢の広がり」を効果的に伝えることで、保護者・生徒が地元高校を前向きに選択できる環境づくりを推進することを提言します。

### 【想定される対応策】

- ・地域振興局や町村等の各事業(移住定住促進、地域ブランディング、観光振興等)と連動した広報戦略の展開
- ・SNS、地域メディア、保護者向け説明会など多様なチャネルを活用した情報発信
- ・地元高校卒業生のロールモデル紹介(進学実績、キャリア事例)による具体的イメージの提供

## おわりに

本調査により、木曾地域の学びの環境に関する現場の切実な声とニーズが数多く寄せられました。これらの課題は一朝一夕に解決できるものではありませんが、本提言で示した3つの方向性により、本調査結果を最大限に活用し、関係者全員が当事者意識を持って具体的な行動につなげていくことを期待します。

## 参考資料

### 調査項目詳細

### 保護者アンケート

#### 学びの環境に関するアンケート【保護者の皆様】

このアンケートは、木曽地域の子どもを取り巻く学びの環境について広域連携を推進するにあたり、保護者の皆様が感じている課題やニーズを把握し、今後の具体的な取り組みの検討資料とすることを目的としています。ご多忙のところ恐縮ですが、率直なご意見をお聞かせいただきますよう、お願い申し上げます。

\* 必須

Q1 お子様が通学している学校名 \*

上松小学校、南木曽小学校、福島小学校、日義小学校、開田小学校、三岳小学校、木祖小学校、王滝小学校、大桑小学校、上松中学校、南木曽中学校、木曽町中学校、日義中学校、開田中学校、木祖中学校、大桑中学校

Q2 お子様の学年 \*

複数のお子様がいる場合は、最も年齢の高いお子様についてご回答ください。

小学校1年生、小学校2年生、小学校3年生、小学校4年生、小学校5年生、小学校6年生、中学校1年生、中学校2年生、中学校3年生

Q3 お住まいの町村 \*

上松町、南木曽町、木曽町、木祖村、王滝村、大桑村

#### I 子どもの学びの環境について

Q4 お子様の学校の授業以外で、どのようなことが充実していると良いとお考えですか？

(複数回答可) \*

- ・ICTを活用した学習機会
- ・課外活動（部活動等）の種類・選択肢の充実
- ・放課後の学習支援
- ・進路指導・キャリア教育（職場体験等）
- ・特別な支援が必要な子への対応
- ・地域の自然や文化を学ぶ機会
- ・その他

Q5 4で選択された項目について、どのように充実させてほしいか具体的にお書きください。

(選択されたすべての項目でなくて構いません。特に充実してほしいものについてご記入ください。)

#### II. 広域連携による教育環境の充実について

Q6 木曽地域の複数の町村・学校が連携することで、お子様の教育環境が充実すると思うことはありますか？(複数回答可) \*

- ・他校の児童生徒との交流機会
- ・合同での学校行事（運動会、文化祭等）

- ・部活動の合同チーム編成・合同活動
- ・オンライン授業による選択肢の増加
- ・地域全体での体験学習（職場体験、自然体験等）
- ・図書館や施設の相互利用
- ・学習塾のような放課後学習支援
- ・特別な支援が必要な子への専門的サポート
- ・特にない
- ・その他

Q7 6で選択された項目について、主な理由をお書きください。（選択されたすべての項目でなく構いません。特に連携が必要だと思われるものについてご記入ください。）

### Ⅲ. 地域との連携について

Q8 地域の大人や企業が学校教育に関わることについて、どのようにお考えですか？ \*

- ・積極的に関わってほしい
- ・内容によっては関わってほしい
- ・あまり関わってほしくない
- ・わからない

Q9 地域の方々に学校教育に関わってほしいと思う場面はありますか？（複数回答可） \*

- ・職業についての話を聞く機会（キャリア教育）
- ・専門的な技術や知識を教えてもらう機会
- ・地域の歴史や文化を学ぶ機会
- ・自然体験活動のサポート
- ・登下校の見守り
- ・放課後の学習支援
- ・部活動の指導
- ・学校行事の手伝い
- ・特にない
- ・その他

### Ⅳ. 地元高校への進学について

Q10 お子様の高校進学について、どのようにお考えですか？ \*

- ・できれば地元の高校（蘇南高校・木曾青峰高校）に進学してほしい
- ・子どもの希望を尊重する
- ・地元以外の高校への進学を考えている
- ・まだわからない

Q11 10で「地元以外の高校への進学を考えている」と回答された方にお伺いします。その理由は何か？（複数回答可） \*

- ・子どもが希望する進路（大学進学等）に対応できる高校がない
- ・子どもが希望する部活動がない
- ・子どもが希望する学科・コース（普通科、専門学科等）がない
- ・より充実した施設・設備のある高校を希望している

- ・進学実績の高い高校を希望している
- ・より多くの生徒がいる環境で学ばせたい
- ・地元高校の教育内容や特色が十分にわからない
- ・その他

Q12 地元の高校に進学する場合に、充実してほしいことはありますか？（複数回答可） \*

- ・大学進学に向けた学習支援・進学指導
- ・就職に向けた職業教育・資格取得支援
- ・ICT機器を活用した先進的な学習環境
- ・専門的な学習（インテリア科等の特色ある学科）
- ・地域と連携した実践的な学習機会
- ・少人数でのきめ細かい指導
- ・特にない
- ・その他

#### V. その他

Q13 木曽地域全体または近隣町村・学校と連携して取り組むことで、子どもたちの学びがより豊かになると思うことや、日頃お感じになっていることがあれば、自由にお書きください。

## 教職員アンケート

### 学びの環境に関するアンケート【教職員の皆様】

このアンケートは、木曽地域の子どもを取り巻く学びの環境について広域連携を推進するにあたり、学校現場の教職員の皆様が感じている課題やニーズを把握し、今後の具体的な取り組みの検討基礎資料とすることを目的としています。ご多忙のところ恐縮ですが、率直なご意見をお聞かせいただけますよう、お願い申し上げます。

\* 必須

Q1 所属学校名 \*

上松小学校、南木曽小学校、福島小学校、日義小学校、開田小学校、三岳小学校、木祖小学校、王滝小学校、大桑小学校、上松中学校、南木曽中学校、木曽町中学校、日義中学校、開田中学校、木祖中学校、大桑中学校

Q2 職種 \*

教員、事務職員、その他

#### I 広域連携による支援ニーズについて

Q3 学校運営において、他の町村・学校との連携や地域全体での支援があれば改善できると感じている課題はありますか？（複数回答可）

- ・専門的な指導者の確保（外部講師、専門家等）
- ・ICT機器の活用支援・技術サポート
- ・部活動の指導者確保
- ・学校行事の合同実施
- ・教職員研修の充実

- ・不登校児童生徒への支援
- ・教材・教具の共有や効率的な活用
- ・学校事務の共同化
- ・特にない
- ・その他

Q 4 3で選択された項目について、どのような支援や連携が必要か具体的にお書きください。  
(選択されたすべての項目でなくて構いません。特に必要だと思われるものについてご記入ください。)

## II. ICT活用について

Q 5 ICT機器の活用において、困っていることや不安に感じていることはありますか？

(複数回答可)

- ・機器の操作方法がわからない・トラブル時の対応
- ・授業での効果的な活用方法がわからない
- ・ICT支援員等のサポートが不足している
- ・研修機会が少ない
- ・特に困っていることはない
- ・その他

Q 6 ICT活用に関して、広域で連携した支援があるとしたら、どのようなものが効果的だと思いますか？

## III. 部活動の地域移行(展開)について

※中学校の教員の方のみお答えください。その他の方は次のセクションの質問9へお進みください。

Q 7 部活動の指導において、困っていることや悩みごとはありますか？(複数回答可)

- ・専門的な指導ができる教員がいない
- ・指導に割ける時間が不足している
- ・生徒数が少なく、チームが組めない
- ・施設・設備が不足している
- ・他校との合同チーム編成・合同活動が難しい
- ・生徒の移動手段の確保
- ・休日の指導による教員の休息時間の確保が困難
- ・地域の指導者との連携方法がわからない
- ・特に困っていること・悩みごとはない
- ・その他

Q 8 部活動の地域移行(展開)について、広域連携でできることがあるとしたら、どのようなことが効果的だと思いますか？

## IV. 地域との連携について

Q 9 地域住民や企業、NPO等との連携で、教育活動が充実すると思われる分野はありますか？

(複数回答可)

- ・キャリア教育(職場体験、出前授業等)
- ・地域学習・探究学習

- ・放課後学習支援
- ・登下校の見守り・安全確保
- ・学校行事の運営支援
- ・特別支援教育の補助
- ・部活動の指導
- ・図書館運営・読書活動支援
- ・その他

Q10 地域や企業と連携して取り組みたい事や、連携を進めるために必要だと思う支援や仕組みはありますか？

#### V. 学校運営（事務部門）における広域連携について

※事務職員の方のみお答えください。その他の方は次のセクションの質問 13 へお進みください。

Q11 学校事務（総務、経理、施設管理等）において、複数校で連携・共同処理することで効率化できると思う業務はありますか？（複数回答可）

- ・物品・教材等の共同購入・在庫管理
- ・施設・設備の保守点検業務
- ・給食関連業務
- ・ICT 機器の管理・保守
- ・予算執行・会計業務
- ・共同学校事務室の設置
- ・わからない
- ・その他

Q12 学校事務の広域連携を進める上で、懸念されることや必要な支援があれば、お書きください。

#### VI. 地元高校への進学について

Q13 木曾地域の中学生が、地元の高校（蘇南高校、木曾青峰高校）ではなく他地域の高校へ進学する理由として、どのような要因があると思いますか？（複数回答可）

- ・生徒自身が地元以外の高校を希望している
- ・保護者が地元以外の高校を希望する傾向がある
- ・地元高校の教育内容・特色が十分に知られていない
- ・地元高校の進学実績への不安
- ・部活動の選択肢が少ない
- ・施設・設備が充実していない
- ・小規模校であることへの不安
- ・その他

Q14 地元高校への進学を促進するために、中学校と高校が連携してできることがあるとしたら、どのようなことが効果的だと思いますか？（複数回答可）

- ・中高合同の授業・学習活動
- ・中高合同の部活動・文化活動
- ・高校生による中学校での出前授業
- ・地元高校の進路実績・卒業生の活躍の情報発信
- ・保護者向けの学校説明会の充実

- ・地域学習・探究学習での中高連携
- ・オンライン授業等の中高接続プログラム
- ・その他

Q15 地元高校の魅力を高めるために、地域全体で取り組めることがあるとしたら、どのようなことが考えられますか？

#### **VII. その他**

Q16 教職員が木曾地域で働きたいと思えるようにするために、何が重要だと思いますか？  
(複数回答可)

- ・住宅環境の充実（教員住宅、賃貸住宅の確保等）
- ・生活利便性の向上（スーパー、病院、金融機関等へのアクセス）
- ・飲食店や商業施設の充実
- ・医療・福祉サービスの充実
- ・子育て環境の充実（保育園、学童保育等）
- ・地域住民との交流機会
- ・公共交通機関の充実
- ・家族も含めた移住・定住支援
- ・その他

Q17 木曾地域内または近隣町村・学校と連携して取り組むことで、子どもたちの学びがより豊かになると思うことや、日頃お感じになっていることがあれば、自由にお書きください。